

Operation Raleigh News

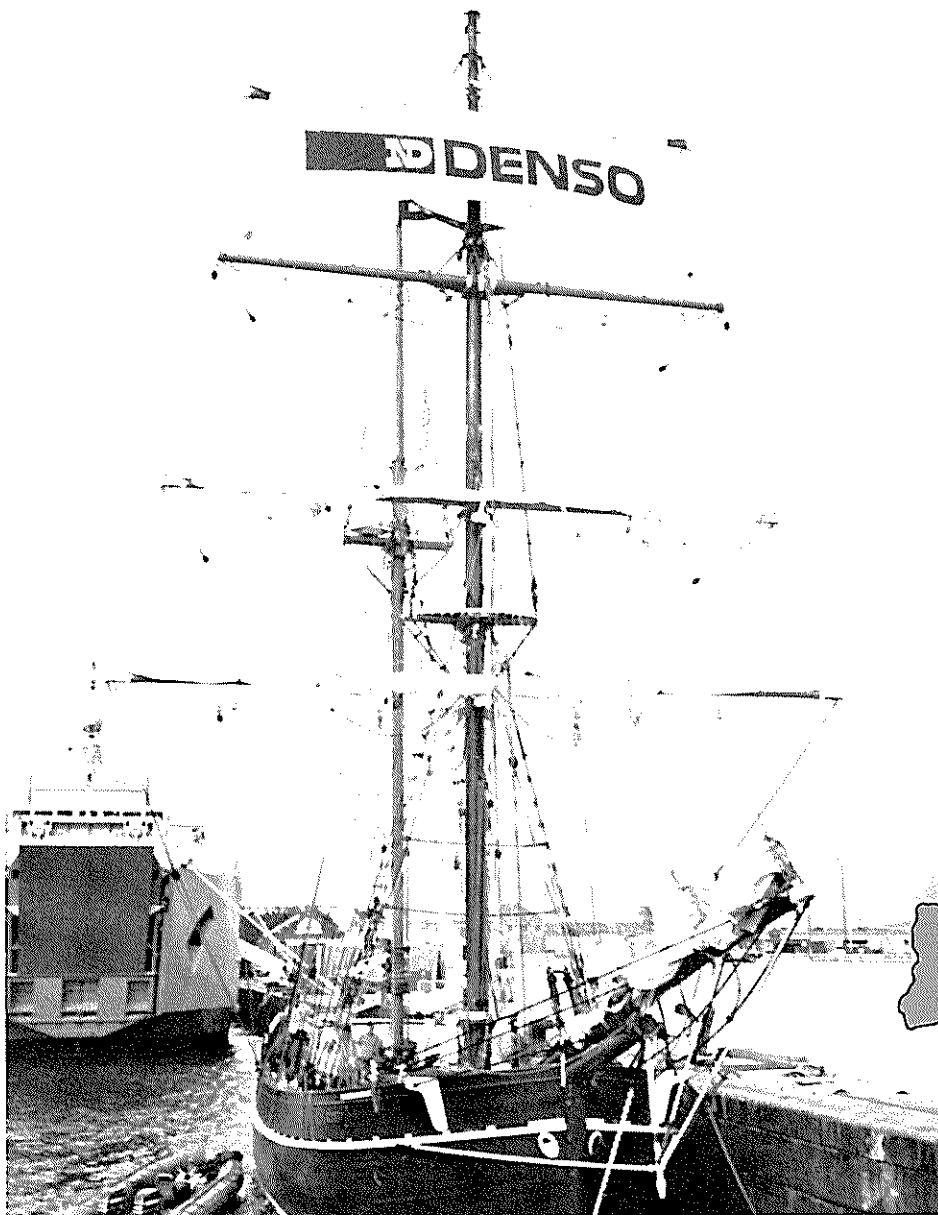


No.1 創刊号 昭和59年(1984)10月5日(金)
毎月1回発行

●発行所 オペレーション・ローリー日本委員会
〒104 東京都中央区築地1-7-10 築地オーミビル502号
電話 東京(03)544-7413

●このオペレーション・ローリーニュースは日本電装㈱のご協力で作られたものです。

帆船ゼブ号(先発船)英国サザンプトン出帆へ



サザンプトン出港を待つ帆船ゼブ号

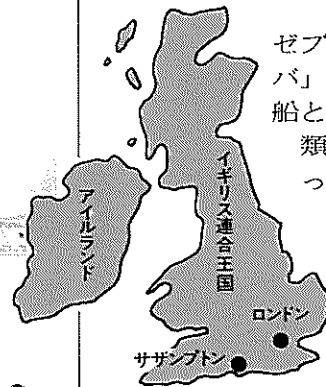
第1陣成田を出発

オペレーション・ローリー1984年次日本代表の第1陣として、ゼブ号に乗り組む松井直弘君、桃井和馬君は9月12日(水)午後9時、成田空港発のエール・フランス機で元気に出発しました。2人はアンカレッジ、パリ

経由でロンドンに入り、約3ヵ月間で大西洋を横断する帆船ゼブ号の待つサザンプトンに向かいました。成田空港には日本電装の高橋課長、事務局メンバーをはじめ、派遣メンバーの橋本かおりさん、高柳俊成君、菊池孝範君もかけつけ、2人を激励していました。

乗組員は16名 日本から松井・桃井君

オペレーション・ローリーが、いよいよ本格的な活動を開始しました。1984年9月14日(金)、先発帆船ゼブ号は英国サザンプトンで16名の乗組員を乗船させました。この16名の中には、日本から松井直弘君、桃井和馬君が加わっています。約1ヵ月間、航海訓練を受けたあと、10月11日(木)にセント・キャサリンズドック港を出発、リスボン、カナリア諸島(サンタクルーズ)などに寄港して、大西洋を横断。西インド諸島を経由して、12月中旬には英領バハマのフリーポートに到着する予定です。この間、航海術の訓練や海洋調査などを行ない、国籍の異なる16名の青年たちが苦楽をともにすることになります。

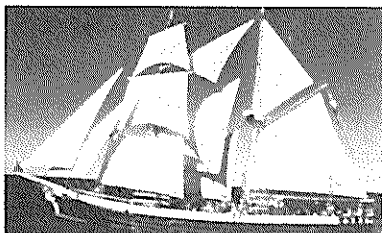


ゼブ号は建造当時「ジバ」と名づけられ、商船として材木、塩、穀類を積んで北海を渡っていました。1972年、英国人に買われ、チャーターヨットとして改造。1983年ゼブ号は本格的に修理され、セイルも日本電装のスポンサーで新しく張りかえられました。

先発帆船ゼブ号の概要は次の通りです。

- 建造/1938年(スウェーデン製)
- 大きさ/ロッド72フィート、ロア102フィート、ビーム20.2フィート、ドラフト7.5フィート
- マスト/2本●帆数/13
- 船体材料/オーク・松
- エンジン/84馬力
- 電気系統12V、24V、240V

帆船ゼブ号による 探険旅行日程



- 9月14日(金)
サザンプトンにて、帆船ゼブ号乗組員は乗船報告をする。
- 9月17日(月)
サザンプトンで開催中の船舶ショー閉会。ゼブ号の訓練開始。大西洋沿岸諸国、海峡の島々への航海へ向けての準備。
- 10月10日(水)
セント・キャサリンズドックでの最終食糧積み込み。
- 10月11日(木)
セント・キャサリンズドック港より出航。
- 10月24日(水)
ポルトガルのリスボン寄港。
- 11月1日(木)
リスボン港出航



●ゼブ号の航路

- 11月7日(水)
カナリア諸島サンタクルーズに寄港。
- 11月15日(木)
サンタクルーズ出航。
- 12月4日(火)
アンティグア島(西インド諸島)に寄港。
- 12月8日(土)
アンティグア島出航。
- 12月19日(水)
バハマのフリーポート到着。
- 12月20日(木)
ゼブ号探険参加者はフリーポート国際空港より、空路帰国の途につく。

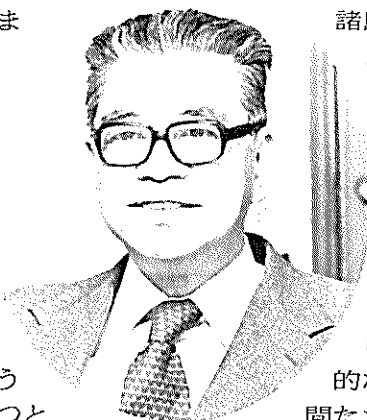
「ORニュース」創刊のごあいさつ

オペレーション・ローリー日本委員会(ORJC)

委員長 永井 道雄
(元文部大臣・国連大学学長特別顧問)

“地球”を舞台に本格的活動へ あたたかいご支援・ご理解を!!

人類はいま、さまざまな危機に直面しています。その中において、世界の平和、人類の共存共栄を恒久的なものにしていくためには、国際的な視野に立つことのできる若い人材の育成が何よりも急務といわねばなりません。このような国際人の育成のひとつとして、「オペレーション・ローリー」は極めて有意義な試みであると思えます。



諸島、コスタリカ、ホンジュラス、パナマ、エクアドル、ペルー、チリーなど中南米諸国へ送り出すことになっています。選ばれた青年たちは、いずれも積極果敢かつ、優秀な人材であり、彼らひとりひとりの冒険的な体験や世界各国の仲間たちとの交流は、将来の

日本および世界のために大きな成果を生みだすに違いありません。私たち「オペレーション・ローリー日本委員会」は、彼らの活躍ぶりを、できるだけ多くの方々にお知らせし、ご理解を深めていただくために「Operation Raleigh News」を発行することにいたしました。遠く離れた国々とはいえ、地球はますます狭くなっており、情報伝達もスピーディになっています。「オペレーション・ローリー」に関する情報は、少しでも早く、正確にこの紙面でご紹介していきたいと思えます。当面、毎月1回の発行を予定し、必要に応じて、特集・号外なども企画編集していく予定です。1985年は中南米、1986年は、オセアニア、南極大陸、そして1987年は東南アジア、日本さらにアフリカへと舞台はまさに地球的規模での活動になります。

そして、先般、9月12日には、派遣青年第1陣として、松井直弘君、桃井和馬君の2名を英国へ送り、先発帆船ゼブ号に乗組んでもらいました。さらに11月早々には、旗艦サー・ウォルター・ローリー号に3名の派遣青年を送ることになっています。

これらの諸活動につきましては、多くの方々のひとかたならぬご支援、ご協力のおかげで、ほぼ予定通りに運ぶことができました。紙上を借りて、ここに厚くお礼申し上げます。ところで、「オペレーション・ローリー」の本格的な活動はいよいよこれからです。前述の5名を含め、本年中に9名の派遣青年を送り込み、さらに来年中には21名の青年たちをバハマ

諸島、コスタリカ、ホンジュラス、パナマ、エクアドル、ペルー、チリーなど中南米諸国へ送り出すことになっています。選ばれた青年たちは、いずれも積極果敢かつ、優秀な人材であり、彼らひとりひとりの冒険的な体験や世界各国の仲間たちとの交流は、将来の日本および世界のために大きな成果を生みだすに違いありません。

どうか、この「Operation Raleigh News」をお読みいただき、日本および世界の青年たちの活躍ぶりにご期待いただくとともに、今後ともあたたかいご支援とご理解をお寄せくださいますようお願い申し上げます。



オペレーション・ローリー本部(英国)
評議会副議長
ジョン・ブラッシュフォード・スネル氏

スネル氏の印象記

《真夏の夜の夕餉》

日本代表派遣青年 **橋本かおり** (JP0004)

8月下旬、オペレーション・ローリー英国本部の評議会副議長であるジョン・ブラッシュフォード・スネル氏が来日し、日本委員会(ORJC)のメンバーと会談しました。そのとき、日本代表派遣青年メンバーの橋本かおりさんも同席しましたので、その印象記を報告してもらいました。

大きな手と握手……

会話もはずむ気さくな人柄

スネル氏が日本に立ち寄る、との耳よりの知らせを受けたのは、8月15日のことでした。ぜひお会いしたい、という願望に取り憑かれ、嬉しいことにそれは現実となりました。8月24日の夕方、仕事をさっさと終わらせ、足早に三笠会館に向かった私は、ORJCの方々がお揃いのお座敷に足を踏み入れました。初めてお目にかかるスネル氏の大きな手と握手し、次の瞬間にはすでに打ち溶けて、お互いに機関銃のように会話をはずませることになります。写真や経歴で知る限り、オペレーション・ローリーの大ボスは、錚々たる厳つい人物だと想像していたのですが、実際は若者がついていくだけの引力を備えた、気さくな人でした。

イギリスの参加者も千差万別

海外未経験者も……

ロンドン側の生の情報を聞きたくて仕方のなかった私の質問に対し、本部も準備に大わらわで、渾沌とした状態にあること、オペレーション・ドレークのとくに活躍した参加者たちも、今回手を貸していること、イギリス側の参加者たちも、年齢や経験が千差万別であり、本国の外へ

一歩も出たことのない人も中にはいること、など話してくださいました。



「ちなみに君は何ができるんだ。ダイビングやヨットの操作は？」と聞かれたときは「技術的なことには弱いけれど、写真や絵を描くことは好きだ」と答え、現在の仕事で企画・制作を担当している某カメラメーカーの海外向けニューズレターを差し出しました。

この会見と資料で

ロンドンの事情も明らかに

するとたちまち、「君には報道や記録の面で、大いに働いてもらうかも知れない」との反応が返ってきました。リーダーシップを育むこと、各自のもつ能力を最大限に生かすことに、だいぶ力を入れているようです。矢のように過ぎ去った夏の夜のひとときでしたが、リクエストに応じてその後送ってくださった資料と合わせ、だいぶロンドンの事情に対する視界が開けてきた、という感がありました。

ロンドンでの再会が楽しみです。どのような日々が待ち受けているのでしょうか。



アレクサンドラ女王 旗艦の命名式に出席

オペレーション・ローリーの旗艦サー・ウォルター・ローリー号の命名委員会は、9月4日、この船のスポンサーとなったハル市で開かれ、アレクサンドラ女王が出席されました。サー・ウォルター・ローリー号は、このあと、ロンドン、サザンプトン、プリマス、リバプールなど英国各地を巡航し、オペレーション・ローリーのPRを行なっています。



●旗艦サー・ウォルター・ローリー号
(サザンプトン港)

チャールズ皇太子 旗艦出航式に参加

旗艦サー・ウォルター・ローリー号は、11月13日(火)に英国中部のハル港から出航し、米国ノースカロライナへ向かうことになっていますが、このハル港での出航式に、チャールズ皇太子が出席し、みずからサー・ウォルター・ローリー号の舵をとることになっています。英国海軍仕込みのチャールズ皇太子の腕前に、大きな期待が寄せられています。

1984年次

オペレーション・ローリー日



JP0001
松井 直弘
 23歳・大阪府
 信州大学農学部卒業。タイのスラム街保育園で奉仕活動。1984年9月14

日から12月20日まで、ゼブ号に乗り組み、航海する。



JP0002
桃井 和馬
 21歳・東京都
 テンプル大学（日本）教養学部在学。水泳が得意。松井君とともに、英国

サザンプトンより、ゼブ号に乗船し、パハマのフリーポートへ。



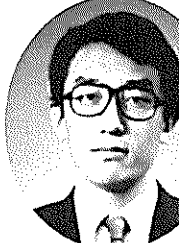
JP0003
戸上 忠顕
 20歳・三重県
 東京商船大学商船学部在学中。海洋研究や帆走など得意。1984年11月1

日から85年1月16日までサー・ウォルター・ローリー号（旗艦）に乗船。



JP0007
大見 則親
 24歳・愛知県
 名古屋大学大学院工学研究科在学。ボーイスカウトのリーダー、アマチュ

ア無線免許あり。1984年12月20日から85年3月6日まで、パハマ諸島で活動。



JP0008
小俣 博泰
 21歳・東京都
 専修大学経済学部在学。作曲、ピアノ、地理学、考古学が得意。1984年

12月20日より85年3月7日まで、ゼブ号でパハマ諸島航海。



JP0009
戸崎 肇
 20歳・広島県
 京都大学経済学部在学。ボート部キャプテン。1984年、12月20日より85年

3月7日まで、ゼブ号に乗船し、パハマ諸島を航海。



JP0013
今田 恒夫
 19歳・山形県
 山形大学医学部在学中。ピアノ、スキー、テニスなどが得意。1985年4

月4日から6月19日まで、ホンジュラスで学術調査、冒険旅行。



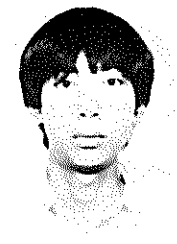
JP0014
田中 正信
 22歳・山口県
 東北大学法学部在学中。アメリカへ1ヵ月ホームステイ。スキー、水泳

が得意。1985年4月4日から6月19日までホンジュラスで学術調査、冒険旅行。



JP0015
谷川 秀夫
 23歳・東京都
 筑波大学比較文化学類在学。カヌークラブのキャプテン。1985年4月4

日から6月19日まで、ホンジュラスで学術調査、冒険旅行。



JP0019
筒井 正幸
 22歳・大阪府
 大阪大学経済学部在学。バスケット、卓球が得意。1985年4月4日から6

月26日までパナマで学術調査、奉仕活動に参加。



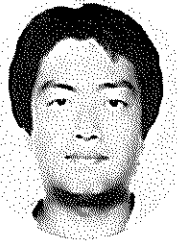
JP0020
菊地 孝範
 22歳・北海道
 一橋大学法学部在学。アメフト、スキーが得意。1985年7月4日から9

月24日まで、エクアドルにて学術調査、冒険旅行。



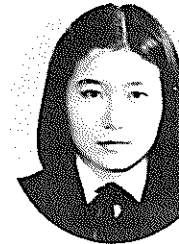
JP0021
新保 陽子
 18歳・東京都
 慶応義塾大学法学部在学中。ネブラスカにて高校1年間体験。1985年7

月4日から9月24日まで、エクアドルにて学術調査、冒険旅行。



JP0025
大塚 洋
 22歳・京都府
 関西学院大学経済学部。労働ビザで、オーストラリアに1年4ヵ月間滞在。

1985年7月4日から9月24日までペルーで学術調査、冒険旅行。



JP0026
片岡 理智
 22歳・東京都
 読売新聞広告局等で執筆中。写真、スキューバダイビングが得意。1985

年12月19日から86年3月12日まで、チリで学術調査など。



JP0027
加藤 麻岐
 20歳・東京都
 琉球大学理学部海洋学科在学中。ヨット、スキューバダイビング、サン

ゴ礁研究。1985年12月19日から86年3月12日まで、チリで学術調査。

本代表派遣青年をご紹介します。

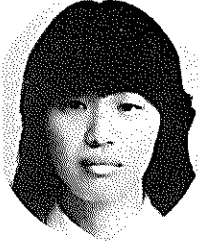


JP0004

橋本 かおり

23歳・群馬県
オープンインター
ユーロップ(働)勤務。
青年の船参加経験
あり。1984年11月

1日から85年1月16日までサー・ウォル
ター・ローリー号に乗船。



JP0005

伊藤 由樹子

20歳・東京都
津田塾大学学芸学
部国際関係学科在
学中。国際交流ク
ルーズの経験あり。

1984年11月1日から85年1月16日までサ
ー・ウォルター・ローリー号乗船。

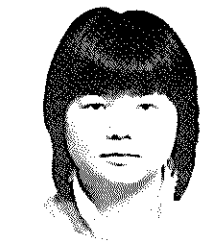


JP0006

堀内 一秀

24歳・東京都
名古屋大学理学部
地球科学科。タイ、
ネパール、パキス
タンで海外登山を

体験。1984年12月20日から85年3月6日
までバハマ諸島で活動。

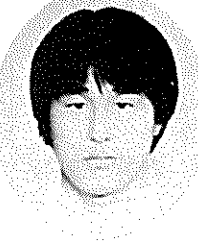


JP0010

前橋 宏美

23歳・東京都
慶応義塾大学法学
部在学。タイ、フ
ィリピンの農村に
2週間滞在。1985

年2月13日から5月15日まで、コスタリ
カで奉仕活動、学術調査。



JP0011

山内 泰胤

23歳・愛知県
(働)紀文ヘルスフ
ーズ勤務。海外協力
隊でスリランカに
滞在。1985年2月

13日から5月15日まで、コスタリカで奉
仕活動、学術調査。



JP0012

勝間 靖

21歳・兵庫県
国際基督教大学教
養学部在学。高校
はアメリカで卒業。
1985年4月4日か

ら6月19日まで、ホンジュラスで学術調
査、冒険旅行。

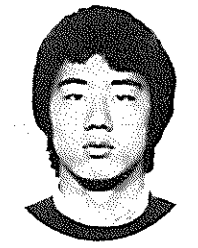


JP0016

平野 裕加里

17歳・愛知県
愛知県立豊明高校
在学中。テニス部
キャプテン。1985

年4月4日から6
月26日まで、パナマにて、学術調査、奉
仕活動。



JP0017

川村 豊

21歳・京都府
京都大学工学部建
築学科在学。パレ
ーボール部キャプ
テン。1985年4月

4日から6月26日まで、パナマにて学術
調査、奉仕活動。

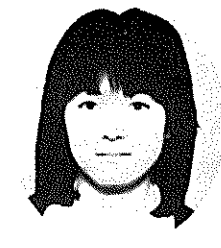


JP0018

岸田 直子

19歳・東京都
早稲田大学第二文
学部在学。アメリ
カ留学経験あり。
スペイン語が得意。

1985年4月4日から6月26日まで、パナ
マで学術調査、奉仕活動。



JP0022

原田 亜紀子

18歳・愛知県
東京女子医科大学
在学中。海外短期
留学あり。マラリ
ア研究中。1985年

7月4日から9月24日まで、ペルーで学
術調査、奉仕活動。



JP0023

細田 香納美

17歳・島根県
神奈川県立外語短
大付属高校在学中。
国際司法裁判所勤
務希望。1985年7

月4日から9月24日まで、ペルーで学術
調査、奉仕活動。

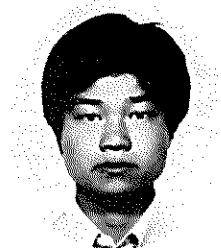


JP0024

石本 一鶴

23歳・石川県
金沢大学工学部在
学中。サッカー、
登山、歴史学が得
意。1985年7月4

日から9月24日まで、ペルーで学術調
査、奉仕活動。



JP0028

鈴木 昭

21歳・山形県
東京大学教養学部
(理II)在学。ボデ
ィビル部。アラビ
ア語が得意。1985

年12月19日から86年3月12日まで、チリ
ーで学術調査など。



JP0029

高柳 俊成

21歳・愛知県
東京大学工学部電
気工学科在学。ヨ
ット、柔道が得意。
1985年12月19日か

ら86年3月12日まで、チリーで学術調
査など。

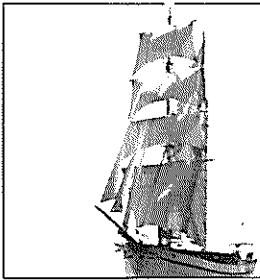


JP0030

吉田 靖

20歳・大阪府
京都大学工学部機
械系学科在学。ヨ
ット、テニスが得
意。1985年12月19

日から86年3月12日まで、チリーにて学
術調査など。



日本代表派遣青年のページ

出発前の松井・桃井両君に聞く

派遣青年会報より

——準備で苦勞したことは？

松井 靴が大変だった。デッキシューズといっても、寒冷地用、悪条件用、ウエリントン用といろいろあって迷う。ブーツはイギリスで買うつもりだ。

桃井 何をそろえていいのかわからず困った。3ヵ月間ムダなものを持っているわけにはいかないし……。

——やり残してしまったことは？

松井 尺八、空手、英会話をやっておきたかった。

桃井 行く地域、地域の勉強をしておきたかった。

——逆にこれはやったというのは？

松井 ディンギーを3日間練習した。風とセイルの基礎理論は覚えたつもりだ。日本の歌、西条八十、北原白秋の歌などは覚えた。またゼブ号の仲間にプレゼント

する日本の扇子を用意した。(その他、彼は神戸商船大学で帆船に関する知識を仕入れてきました)

桃井 高柳師匠(派遣メンバーのひとり)に1日ディンギーを教えてもらった。救急法のライセンスも取った。また商船大の人に話を聞いたりもした。さらに丹沢の山登り、沢登りをした。(彼は、成田空港で日本紹介の一助として、「家庭画報」「Be-Pal」などの雑誌を仕入れていました)

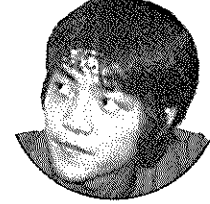
——松井さん、山をやり始めたのは、いつ？

松井 ちゃんと始めたのは大学から。信州大学の山岳部に1年在籍。林業が大学時代の専攻だった。とくに森林生態学。

——オペレーション・ローリーは何で知った？

松井 新聞紙上で。

桃井 僕も同じ。4月以降だったと思う。



——応募のキッカケは？

松井 森林生態学が専門だからジャングルの生態をやりたいくて……。

桃井 主旨に賛成したから。タダで行ける魅力もね。とにかく何かやっていないと気がすまぬ性格だから……。

——帆船の上で何をしたい？

松井 毎晩、星をながめ、魚の生態なども観察したい。

桃井 どのように、外国の仲間と仲良くなるかを体験したい。どうやって押していくか……。

——その他の抱負は？

松井 9月末の試験を受けられないという事態になったが、その分、向こうでがんばって何かを得てきたい。

桃井 この機会を自分で生かしたい。

——帰国後はどうするか？

松井 試験を受け、大学院に入り直し、勉強を続けたい。

桃井 沢登り。

——お金はどれくらい持っていく？

松井・桃井 20数万円ぐらい。

(聞き手は派遣メンバーの橋本かおりさんでした)



サザンpton港ゼブ号の前で 松井・桃井君

堀内・大塚両君 富士山の洞穴を探検

9月1日、2日の両日、派遣メンバーの大塚洋君の所属する関西学院大学探検会の合宿に、同じく派遣メンバーの堀内一秀君が参加し、青木ヶ原探検にチャレンジしました。とくに富士風穴、本栖風穴の探索ではアイスリンクのような氷の床に感動したということです。

関西の派遣メンバー3人組 40キロ縦走に挑戦

関西在住の派遣メンバーである松井直弘、筒井正幸、川村豊の3君は、8月31日(金)、金剛山一葛城山一二上山を踏破する40キロ縦走にチャレンジしたが、奮闘空しく、途中下山。結局14キロハイキングとなったそうです。途中、リタイアの原因は、メンバーのひとりのトレーニング不足ということで、報告書には反省文も掲載されていました。

松井・桃井両君の 歓送パーティ開く

東京では9月10日(月)、岸田直子さん宅で、松井・桃井両君の送り出しパーティを盛大に行ないました。

参加者は、両君のほか、大見、堀内原田、新保、鈴木、菊地、小俣、勝間、谷川、高柳、橋本、岸田の総勢14名。OR関係のビデオを上映し、全員で見ました。

また、大阪では、「松井君を送り出す会」が9月7日(金)に行なわれました。出席者は、松井、川村、筒井のメンバーのほか、今年度は不合格だったが、来年度もチャレンジするという、中瀬君、新谷さんも参加しました。会場は、大阪らしく、梅田のろばた風飲み屋。ボルテージもあがり、大いに盛りあがったようです。



Operation
Raleigh

DENSO

オペレーション・
ローリー&
日本電装のページ

日本電装は、 なぜORに協賛したのか？

英国で提唱された青年による世界一周冒険旅行計画「オペレーション・ローリー」は、参加する世界各国の青年たちばかりでなく、このビッグ・プロジェクトを支える多くの人々の協力が不可欠です。このプロジェクトに参画することは、国際協力を重視する日本電装にとっても非常に意義のあることです。日本電装では、とくに次の3点に共感し、全面的協賛企業として名乗りをあげました。

冒険心 現代社会の中で見失なわれがちな冒険心、チャレンジ精神にあふれた「オペレーション・ローリー」は、日本電装にとって共感できること。

国際協調 異なる文化をもつ青年たちがひとつの目的・共通の場の中で相互理解を深めながら培われる国際的な協調精神に期待できること。

科学と奉仕 価値ある科学調査や社会奉仕活動などを通じて、目的を完遂することで自信をもち、世界を担う人間に育つことが期待できること。

以上のように「オペレーション・ローリー」は、日本電装が事業活動と併行して、文化活動面でも国際交流に貢献することのできるビッグプロジェクトであり、企業精神と一致するものであるという認識のもとに協賛が決定されました。

帆船ゼブ号のセイルにNDマーク

オペレーション・ローリーの先発船として、10月11日(木)セント・キャサリンズドック港から出航する帆船ゼブ号のセイル(白地)に赤いNDマークと欧文ロゴタイプ(DENSO)が刷りこまれています。これはオペ

NDマーク入りワゴン車 英国本部が購入

オペレーション・ローリー英国本部では日本電装の協賛により、4ドアステーションワゴン(フォード・シエラ2000)を購入しました。これは、本部の移動用のもので、ロンドンを中心に、空港や港へのスタッフの輸送、連絡業務などに活躍します。メタリックゴールドのボデーの両サイドには、オペレーション・ローリーのマークとともに、赤でデンソーマーク、黒でスパークプラグの文字が書きこまれています。



レーション・ローリーが日本電装の協賛で推進されていることを示すもので、セイルのほか、マストにも赤地に白くNDマークを染めぬいたフラッグがはためきます。

新聞・雑誌でも評判のOR

「オペレーション・ローリー」の日本におけるプロジェクトが決定した3月以来、新聞・雑誌を中心に、さまざまな記事が掲載されました。おもなものは次の通りです。

【新聞】 福島民報、毎日新聞、世界日報、アサヒブニングニュース、中部読売新聞、徳島新聞、北海道新聞、名古屋タイムズ、新潟日報、栃木新聞、夕刊フジ、読売新聞、神奈川新聞、山形新聞、朝日新聞、高知新聞、京都新聞、山陽新聞、熊本日々新聞、沖縄タイムズ、サンケイ新聞ほか。

【雑誌】 平凡パンチ、週刊大衆、セイル、Be-Pal、サンデー毎日ほか。

【テレビ】 NHKニュースセンター9
【ラジオ】 NHKラジオなど



【写真】 サザンブトン号に停泊中のゼブ号船長の特別のはからいで、NDマーク入りのセイルおよびフラッグを掲げてもらい撮影したものです。

オペレーション・ローリー これまでの経過

1984年3月9日、英国の慈善団体である科学探険協会の呼びかけに応じて、オペレーション・ローリー日本委員会(永井道雄委員長)が発足。日本電装株式会社が協賛企業となりました。これ以降、オペレーション・ローリーは日本国内での活動を開始、以下にその経過を紹介します。

●4月1日(日)▶5月20日(日)

1984年次派遣青年募集活動

オペレーション・ローリー日本委員会が、1984年次日本代表派遣青年30名を募集。論作(青年にとってのフロンティア・スピリット)、履歴書、選考アンケートで第1次募集には、534名が応募。なお募集要項請求者数は3,307名に及びました。

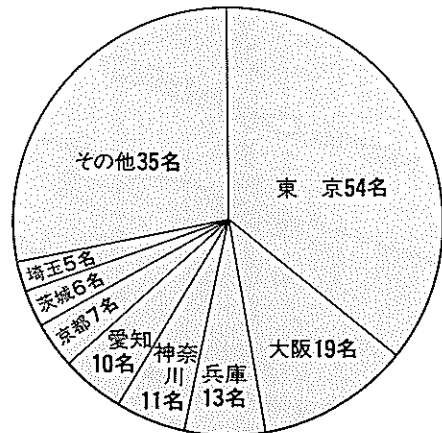


●5月28日(月)▶6月1日(金)

第1次選考(書類および論作)

534名の応募者について、書類および論作による選考が行なわれ、第1次合格者は160名に絞られました。

★都道府県別第1次合格者状況



●6月16日(土)▶24日(日)

第2次選考(面接)

160名の第1次合格者について、東京、大阪、名古屋の3会場で面接審査が行なわれ、その結果合格者は60名に絞られました。



●7月15日(日)

第3次最終選考(実技・体力・英語力)

57名(棄権3名)の第2次合格者を東京高田馬場BIG BOXに集めて、英語テスト、泳力テスト、体力測定を行ないました。その結果、30名の派遣青年が決定しました。



●7月21日(土)

ORシンポジウムの開催

異なる文化的背景を越えて、若者たちが国際協力に貢献することを目的とするオペレーション・ローリーの意義を広く一般にアピールし、国際社会における日本の立場と将来についての考察を深めるために「異文化をいかに理解するか」という視点でシンポジウムを開催しました。オペレーション・ローリー日本委員会と朝日新聞社の主催で、後援は外務省・英国大使館、協賛は日本電装株式会社。会場は東京プレスセンターホールで300名が参加しました。

★主な講演者

- 永井道雄 (ORJC委員長)
- 遠藤周作 (作家)
- 青木 保 (大阪大学教授)
- 祖父江孝男 (放送大学教授)
- 見田宗介 (東京大学教授)
- 筑紫哲也 (朝日ジャーナル編集長)



●7月21日(土)

派遣青年記者発表

1984年次オペレーション・ローリー日本代表派遣青年30名の記者発表がシンポジウムに引続いて行なわれました。永井道雄ORJC委員長、寺下英明ORJC実行委員、稲生清日本電装常務取締役も列席しました。



●7月28日(土)▶30日(月)

三宅島オリエンテーション

オペレーション・ローリー日本代表派遣青年オリエンテーションが、三宅島で行なわれました。探険家、登山家などのリーダーのもとで、救急訓練などのオリエンテーションを30名の派遣青年が受けました。



●9月12日(水)

第1陣成田→ロンドン→サザンプトンへ

1984年次派遣青年のうち、第1陣として、松井直弘君、桃井和馬君が出発。成田空港→ロンドン経由で、9月14日サザンプトンからゼブ号に乗り組みました。